特別展

「渋沢敬三記念事業
屋根裏部屋の博物館――Attic Museum」

日本銀行総裁、大蔵大臣を歴任した渋沢敬三はまた、邸内に私設博物館兼研究所を設立した民俗学者でもありました。本展では、渋沢敬三の経歴と民俗学研究を紹介します。

会期　12月3日（火）まで
会場　特別展示館

■関連イベント

◆公開シンポジウム
「渋沢敬三を語る――偉大なる学問の庇護者（ひごしゃ）」

井上潤（渋沢史料館 館長）
内田幸彦（埼玉県立歴史と民俗の博物館 主任学芸員）
武田晴人（東京大学大学院 教授）
宮本瑞夫（宮本記念財団 理事長）
久保正敏（本館 教授）

日時　10月13日（日）
13時30分～16時30分（13時開場）
会場　講堂（定員450名）
※申込不要、先着順、参加無料
※当日10時から講堂入口にて整理券を配布

◆ワークショップ
「ファンタジックコレクション
――集まれ！何でも収集家！」

本特別展示を通して、個人の分類や収集方法について見つめ直します。なんでも収集家大募集！　両日ともご参加ください。

みんぱくゼミナール

会場　国立民族学博物館 講堂
時間　13時30分～15時（13時開場）
定員　450名（当日先着順）
参加費　無料（展示をご覧になる方は、観覧料が必要です）

みんぱくで収集した作品（いのちの輪たち）の制作（2012年10月）

第425回　10月19日（土）

【企画展関連】
心の武装解除――モザンビーク「武器をアートに」プロジェクトを考える
講師　吉田憲司（国立民族学博物館 教授）

アフリカのモザンビークでは、内戦終結後も大量の武器が民間に残されました。その武器を農具や自転車と交換して回収し、武装解除をはかるとともに、回収した武器を素材にアートの作品を生み出して、平和を人々の心に定着させようというプロジェクトが進められています。そのプロジェクト「銃を鍬に」の意義を考えます。

第426回　11月16日（土）

【企画展関連】
台湾平埔（ぺいぽ）族の歴史と文化
講師　野林厚志（国立民族学博物館 教授）

機を織るクヴァラン族の女性（19世紀末頃）

台湾において、早くから漢族の影響を強く受け、慣習、言語、物質文化が大きく変化していった平埔族の人々は、近年、歴史史料や博物館資料を手がかりに自分たちの歴史を見つめなおし、民族アイデンティティを再興させています。今回のゼミナールでは平埔族の歴史と文化を紹介し、エスニシティが再生される過程を考えます。

友の会

友の会講演会（大阪）
会場　国立民族学博物館 第5セミナー室
定員　96名（当日先着順、会員証提示）

第425回　11月2日（土）

くすりの民族学
講師　小山修三（千里文化財団 理事長
国立民族学博物館 名誉教授）

現在の日本は医学が発達し、長生きで健康的な生活が送れるようになりました。これは西洋医学のおかげですが、一方で高額な医療費、効き目の強い薬が用いられるなどの弊害も抱えています。そうした中で、日本に限らず世界各地の土着的な医療が見直されつつあります。日本ではいまも伝統的な売薬や民間薬が活用されています。日本人の薬の使用の歴史を考えながら、薬草についてお話しします。

東京講演会
会場　モンベル品川店2Fサロン
定員　60名（要事前申込）

第107回　12月21日（土）　14時～15時30分

【ビデオテークより】
婚礼に映しだされるインドのいま
講師　三尾稔（国立民族学博物館 准教授）

第83回民族学研修の旅
ベトナム西北部　少数民族の世界へ

11月21日（木）～29日（金）　9日間
訪問先：ベトナム（ハノイ、マイチャウ、ソンラー、サパ）
少数民族の村の訪問や市場めぐり、高床式の民家での宿泊も予定しています。
※詳細は上記友の会までお尋ねください。

親子で体験
泥ってすごい！おもしろい！――すまいと土を考える

10月12日（土）、13日（日）
会場　国立民族学博物館 特別展示館地下休憩所

土壁ぬりを体験するほか、ミニかまど作りなどもおこないます。参加費、プログラム内容などの詳細は上記友の会までお尋ねください。

国立民族学博物館友の会　電話 06-6877-8893（平日9時～17時）　FAX 06-6878-3716
http://www.senri-f.or.jp/　　e-mail minpakutomo@senri-f.or.jp

国立民族学博物館ミュージアム・ショップ

電話 06-6876-3112
FAX 06-6876-0875
e-mail shop@senri-f.or.jp
水曜日定休

ウェブサイトもご覧ください。
オンラインショップ
「World Wide Bazaar」
http://www.senri-f.or.jp/shop/

みんぱくは、屋根裏部屋からはじまった。
――特別展の解説書

現在開催中の特別展「屋根裏部屋の博物館」の解説書をご紹介します。屋根裏部屋の博物館とは、渋沢敬三が創設したアチックミューゼアムのこと。アチックミューゼアムのコレクションは、民博の収蔵資料の母体となったものです。本特別展は、いわば民博のご先祖のひとり、渋沢敬三の生涯をたどり、アチックミューゼアムの歴史をその貴重なコレクションとともに展観するものです。

全216ページの本書は、特別展のコーナーごとの解説を軸に、渋沢敬三とアチックミューゼアムにまつわるコラムをはさんだ構成で読み応え充分。巻末には渋沢敬三の年譜と展示資料の出品目録のほか、参考文献も付いています。民博ファン必読の一冊です。

『渋沢敬三記念事業
屋根裏部屋の博物館 Attic Museum』
価格：2,762円（本体価格）＋税
友の会会員価格：2,486円（本体価格）＋税
編集発行：国立民族学博物館
デザイン：松尾エリ（popworks）、所雅子（きのこ）
制作：株式会社淡交社

日時　10月27日（日）13時～16時
11月17日（日）13時～16時30分
会場　本館展示場【ナビひろば】（定員15名）
応募締切　10月14日（月・祝）
※要事前申込、参加無料

企画展
「武器をアートに
――モザンビークにおける平和構築」

モザンビークでは、内戦終結後に回収した武器でアートの作品を作りだすという事業が進んでいます。アートを通じて平和を築く営みを紹介しています。

会期　11月5日（火）まで
会場　企画展示場B

企画展
「台湾平埔（ぺいぽ）族の歴史と文化」

平埔族の人びとが民族のアイデンティティを再構築するようすを紹介します。国立台湾歴史博物館との国際連携展示です。

会期　11月26日（火）まで
会場　企画展示場A

みんぱくワールドシネマ
「人生、ブラボー！」

人工授精による新しい人間関係の発見を描いた映画を通して、新しい家族の在り方について考えていきます。

日時　11月10日（日）
13時30分～16時30分（13時開場）
会場　講堂（定員450名）
※申込不要、先着順、参加無料
※当日10時から講堂入口にて整理券を配布

「世界のニッポン、みんぱくのニッポン
――夏～秋のみんぱくフォーラム2013」

◆研究公演
「雄勝法印（おがつほういん）神楽みんぱく公演」

豊かな三陸沿岸の文化を代表する雄勝法印神楽をご覧いただき、東日本大震災と東北地方へまなざしを向ける機会になればと思います。

日時　11月23日（土・祝）
13時30分～16時（13時開場）
会場　講堂（定員450名）
※申込締切　10月31日（木）必着
※要事前申込、参加無料

国際シンポジウム
「博物館コレクションの中のシベリア、極東諸民族の文化――収集、保存、展示方法の検討」

日時　10月13日（日）9時30分～17時30分
14日（月・祝）9時30分～12時30分
会場　本館第4セミナー室
使用言語　ロシア語、日本語
（日露の同時通訳がつきます）
講師　佐々木史郎（本館 教授）
※申込不要、参加無料

みんぱく公開講演会
「ミャンマー
――刻んだ歴史　未来へのまなざし」

第一線の研究者が現地調査の経験を踏まえ、ミャンマーの過去、現在、未来に迫ります。

日時　10月25日（金）
18時30分～20時40分（17時30分開場）
会場　東京・日経ホール（定員600名）
※要事前申込、参加無料

佐々木高明先生追悼シンポジウム
「日本文化のしくみ――その多様性を考える」

佐々木高明の学説の概要を紹介し、日本の民族学史の中に位置づけるとともに、どのように受容、批判され、学問的に展開されてきたかを検討します。

日時　11月9日（土）13時～16時30分
会場　講堂（定員450名）
※申込不要、先着順、参加無料

●11月1日から7日は「教育・文化週間」です

教育・文化週間は教育や文化への関心と理解を深め、充実・新興を図ることを目的として設けられ、今年で55回目を迎えます。この機会に全国で開催される様々な行事に足を運んでみてはいかがでしょうか。
http://www.mext.go.jp/a_menu/shougai/kyoiku-bunka/（文部科学省ホームページ）

●展示場リニューアルのお知らせ

展示場リニューアル工事のため、朝鮮半島の文化・中国地域の文化・日本の文化（沖縄の文化）・企画展示場Bが閉鎖されます。

期間　11月7日（木）～
2014年3月19日（水）

●展示場一部閉鎖のお知らせ

本館2階展示場の空調設備更新のため、左記の期間、展示場の一部閉鎖を行います。その間は観覧無料となります（ただし自然文化園（有料区域）を通行される場合は、入園料が必要です）。ご理解とご協力をお願い申しあげます。

1. **12月5日（木）～2014年1月22日（水）**
音楽の一部、言語、南アジア、東南アジア、中央・北アジア、アイヌの文化、日本の文化、ナビひろば、休憩所が閉鎖されます。
2. **2014年1月23日（木）～2月19日（水）**
オセアニア、アメリカ、ヨーロッパ、アフリカ、西アジア、音楽の一部が閉鎖されます。

※お詫びと訂正

9月号12ページ、11月3日開催の研究公演「共振する大地のリズム」の記載内容に誤りがございました。お詫び申し上げます。

訂正前：（先着450名）　訂正後：（定員450名）

訃報　大給近達（おぎゅうちかさと）名誉教授

本館名誉教授の大給近達先生（八二歳）が八月二九日に逝去されました。一九七四年のみんぱく創設とともに第四研究部教授に就任された先生は、大給松平家当主の気品と風格を漂わせつつ、情報システム整備の推進役として、また、初代展示委員長として、みんぱくの基盤完成に尽力されました。ここに深く哀悼の意を表する次第です。

みんぱくホームページ　http://www.minpaku.ac.jp/　　電話でのお問い合わせ　06-6878-8560（本館 広報係）
みんぱくフェイスブック　http://www.facebook.com/MINPAKU.official